

第二十一回春日万葉の森歌垣大会
短歌・俳句作品集

神奈備

春日風鈴まつり

○日時 令和元年八月一日
○場所 和歌山県海南市

「春日神社」にて作品発表





令和元年度第二十一回 春日万葉の森歌垣大会を記念して

春日万葉の森歌垣大会

会長 花 畑 重 靖

(海南文化協会会長)

平成十一年より始まった春日万葉歌垣大会は、平成三十年、第二十回でもって無事に収まり、目出度く「令和」へつなぐことができました。ご応募くださった多くの方々や、選者先生方のお力添えがあつてこそと、感謝いたしております。

元号が変わり初めての春日万葉歌垣大会、振出へ戻った気持ちで迎えることになりました。新元号「令和」は国書（万葉集）の梅花の宴三十二首（三十二名）が詠んだ歌に、宴の主であつた大伴旅人が添えた序文「新しき年の初めの令月にして気淑く風風ぎ・」と梅の花の美しさをあくなく賞賛したこの文節からの引用です。豊かな文化の香りが漂うこの令和に「優しく心寄せ合う中に文化は生まれ育つ」と、言葉が添えられました。

「令和」はきつと素晴らしい文化発展の世となることでしょう。私たち歌詠みにとつてもこの上なき感激と誇りであります。

春日万葉の歌垣大会の今後益々のご発展を期待し、皆様方のご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

短

歌



海南文化協会邦楽研究部による演奏

大賞

明賞

友からの手紙の切手

豎琴のやさしき音色春を連れ来る

宮崎 トシミ

浄賞

「私は貧しくはない」ホセ・ムヒカ氏

そこはかとなく私を生きる

福岡 悟

優秀賞

正賞

呼び起こす言葉のように間を置きて

枯葉はらりとまた一つ散る

壇岡 佳津子

直賞

おさな児の初めてつくりし雪うさぎ

微笑みながら溶けゆきにけり

吉田 美子

勤賞

一夜さの星のしづくに満たされて

白の桔梗朝をふくらむ

森 悦子

人麿賞（春日の森賞）

（春日神社の神様の子孫に柿本人麿がいます）

人麿賞は春日神社より出されます。

この春も先駆けなるはこの桜人住まぬ家のシンボルツリー

登 地 道 子

万緑の中に聞きたり新元号祝う囀り絵馬揺るる音

森 本 美 和

軒下の玉葱うわつと芽を噴きぬ人に知られず用意した春

妻 木 伊 佐 子

ひと日終え命のタイムリミットのすみれ咲く道ゆつくり登る

山 田 暁 美

踊り場に備蓄表示のダンボール二階へ逃げる道を塞げり

野 上 恵 子

車椅子の少女を囲み花いちもんめ手を打てばさくら散りくる木下

森 元 英 子

春日さす国道沿ひの道の駅弾力のよきブリを切り売る

森 元 輝 彦

夕顔の花が実となり干瓢になるを源氏は知るよしもなし

中 尾 加 代

励ましの一語が強く心打つ吾は一人で生きて行けない

下 野 香 代

水遣りの鉢ごとに虹生まれ来る春の光の魔術楽しむ

千 葉 ひとみ

放置田となれる田んぼの畦に立ち老農ひとりしばし動かず

榎 本 せい子

- 1 咲き盛る花より無言のメッセージ今しか詠めぬうたのあるはず
山本真知子（和歌山県海南市）
- 2 水槽の中で一生を過ごしゆくジンベイザメにも届く春の陽
登地 道子（和歌山県海南市）
- 3 初孫の産土詣りようやくに春日の宮は疾く継がれおり
- 4 この春も先駆けなるはこの桜人住まぬ家のシンボルツリー
- 5 おさな児の初めてつくりし雪うさぎ微笑みながら溶けゆきにけり
吉田 美子（大阪府茨木市）
- 6 ガレリアに春の野菜や木々の花光の粒子に満たされてをり
- 7 今まさに反抗期なる中一も階段行けば吾を待ち呉れ
廣田 明代（和歌山県和歌山市）
- 8 薄緑のスカーフ首に友の来る春が一緒に吾をも包む
- 9 雪解けの水の滴り聞こえる木立の奥へ光届けば
浦木 逸子（和歌山県橋本市）
- 10 夏祓の茅の輪潜れば風鈴の短冊揺らす饗宴に会ふ
- 11 氏神の春祭なり餅投げの僅か五分に歓声の沸く
赤井 順子（和歌山県岩出市）
- 12 帰り来て濡れたる傘を広げ乾す桜花びらひいふうみつ
帰る来て濡れたる傘を広げ乾す桜花びらひいふうみつ
- 13 万緑の中に聞きたり新元号祝う囀り絵馬揺るる音
森本 美和（和歌山県和歌山市）
- 14 五十年苦楽を共にせし急須茶洪の染みてわが家が匂う

- 15 「桃咲いた」友のメールに即五人寄る素早さを互いに笑う
宮崎トシミ（和歌山県海南市）
- 16 友からの手紙の切手豎琴のやさしき音色春を連れ来る
- 17 新緑を愛でつつ登る中腹に突と二十本桃の花咲く
大沼二三枝（山形県鶴岡市）
- 18 四百年経しとふ鴨脚樹の銀杏はいつこの木より大き粒なり
- 19 うちは持て扇げば声立て笑み返す赤子の天性きらりと明るい
木村いく子（和歌山県かつらぎ町）
- 20 吾が耳朶にかすかに残る子守唄まごに歌へば寢息やさしも
- 21 塩害に傷める梅の枝に来て今朝もうぐいす歌うソプラノ
森田瑠璃子（和歌山県海南市）
- 22 葉桜の間を残んの花零れ「平成」の終しずしずと舞う
- 23 子や孫はやがて遠のきゆく人と怪我の身ソファーに沁みて思えり
前田とくみ（和歌山県海南市）
- 24 燕の巣より落ちてしまいい雛一わあわれ大空知らないままに
- 25 旅先に落とし来たかか諦めたペン何故ここに記憶すら無し
川久保早苗（和歌山県和歌山市）
- 26 貰ひ来て埋む十粒の一粒が芽吹き一輪アーモンドの咲く
- 27 軒下の玉葱うわつと芽を噴きぬ人に知られず用意した春
妻木伊佐子（和歌山県海南市）
- 28 雨水は行き場を探すや騒がしくごぼり・びしゃ・ざざ・六月の闇

- 29 ひとひらの枯葉が小銭とからみあい共に入りたり賽銭箱へ
土屋 昌也（千葉県千葉市）
- 30 参詣を終えて森の道下りゆく風なく音なく時も消えゆく
茅うがつ土塊の中赤々と時期待つ新芽とがりて並ぶ
野村 貞江（山口県周南市）
- 31 海沿いの河津桜の枝先を波泡立てて船の行き交う
あきらめて沈黙せむか沖繩の基地投票はやはり無視さる
岡崎美代子（東京都杉並区）
- 32 千曲川注ぐ片貝小流れの隈廻に今や螢飛ぶらむ
戦争の愚かさ伝ふそぞろ神貧困差別誰ぞ知るらむ
福岡 悟（東京都八王子市）
- 33 「私は貧しくはない」ホセ・ムヒカ氏そこはかとなく私を生きる
白白と浜大根の花は揺れ皇子の悲劇を辿る古道
野入 博史（和歌山県和歌山市）
- 34 如月の風凍て吹くに空蒼く海の岩辺に香る水仙
大楠に両手押し当て仰ぐ空厚き指紋の幹に抱かれる
山田 暁美（和歌山県紀の川市）
- 39 ひと日終え命のタイムリミットのすみれ咲く道ゆつくり登る
古道行く遍路転がしの異名ある険しき坂を一步一步と
寒川 靖子（香川県丸亀市）
- 40 極寒ののちに春陽のあたたかし地球の鼓動無事なるを祈る

- 43 踊り場に備蓄表示のダンボール二階へ逃げる道を塞げり
野上 恵子（和歌山県和歌山市）
- 44 とうとうと尚とうとうと滝は落ち一番札所に読経流れる
- 45 境界の落合川の水清し万葉人も心したるや
杉本 静子（和歌山県海南市）
- 46 犬養師の温かき手にひかれつつ踏みしはまぼろし飛越石を
- 47 祖たちはなにも応えず花筒の菊かおる日の草むしるなり
木下 正博（和歌山県白浜町）
- 48 線香を身体でかくし火をつける風の墓標の血脈絶ちて
- 49 駅から駅トンネル六こぬけて着く無人駅には桜満開
浜田佳世子（和歌山県美浜町）
- 50 斜面より我を見下ろすかもしかと大塔村にさよならを言う
- 51 鉄柱の上よりわれを観察し一声鳴きて飛び行く鴉
坂本 操（和歌山県海南市）
- 52 今日もまた草取るわれを見下して何覚えいん一羽の鴉
- 53 澄む空にバルーンのぼれりマラソンの号砲にゆれる人に押されて
森元 英子（山口県周南市）
- 54 車椅子の少女を囲み花いちもんめ手を打てばさくら散りくる木下
- 55 一夜さの星のしづくに満たされて白の桔梗朝をふくらむ
森 悦子（和歌山県海南市）
- 56 さまざまな死に会いてきしおいとまの頂き方をふと思う夜

- 57 引き潮に筋なす干潟の藻の流れ一向きにして春は来向かふ
森元 輝彦（山口県周南市）
- 58 春日さす国道沿ひの道の駅弾力のよきブリを切り売る
埴岡佳津子（和歌山県和歌山市）
- 59 呼び起こす言葉のように間を置いて枯葉はらりとまた一つ散る
埴岡佳津子（和歌山県和歌山市）
- 60 久久に降る雨の音心地よく熟睡したり草木もわれも
中尾 加代（和歌山県和歌山市）
- 61 夕顔の花が実となり干瓢になるを源氏は知るよしもなし
中尾 加代（和歌山県和歌山市）
- 62 マカロンを送れば母より電話来て綺麗な最中おいしかったよ
下野 香代（和歌山県湯浅町）
- 63 励ましの一語が強く心打つ吾は一人で生きて行けない
下野 香代（和歌山県湯浅町）
- 64 安売りのティッシュペーパー買ったため吾が残生に有り余る程
高岡 淳子（和歌山県和歌山市）
- 65 亡き母の白寿にはまだ二十余年残る命は色替へてみむ
高岡 淳子（和歌山県和歌山市）
- 66 「懐かしいです」のメールは未送信折り目正しく今日も歌詠む
垂井 邦夫（和歌山県和歌山市）
- 67 菜の花のやさし黄色がひろがりて春の使者か絞白の舞う
垂井 邦夫（和歌山県和歌山市）
- 68 一関ホームに列車着くたびに風鈴やさしく順に迎える
千葉ひとみ（和歌山県橋本市）
- 69 海沿ひの霧中に浮かぶ観覧車人影ふたつ天へ連れゆく
千葉ひとみ（和歌山県橋本市）
- 70 水遣りの鉢ごとに虹生まれ来る春の光の魔術楽しむ

71 園舎にはお別れのうた満ちみちて春の験の静かな震へ

大江 美典（兵庫県西脇市）

72 かじかんだ両手を吐息であたためて夜のコンピニで君を待ちたり

73 且来この言の葉に別離あり悲しき思いあしたに望み

橋本 吉信（和歌山県海南市）

74 我が村は熊野もうでの道すから「且来」とふ地名のありし

75 放置田となれる田んぼの畦に立ち老農ひとりしばし動かず

榎本せい子（和歌山県田辺市）

76 引き取られゆく我が單車見送りてほんと膝打ち立ち上がりたり

77 たらちねの母今何を思へるや門火揺らぎて横顔照らす

田浦 陽子（和歌山県上富田町）

78 秋簾一人となりし女住む庭に小さき花壇作りて

79 若葉する並木の道を行く人の背にゆらゆらと葉洩れ日揺るる

松田 容典（和歌山県和歌山市）

80 朝顔の藍のすがしき朝まだき姐の音路地より聞こゆ

選者詠草



石井和子

さざなみの光

水鳥の白さに中洲埋まりゐてさざなみのごと光の移らふ
翔つ鳥の羽ばたきに散る月の光宿してゆらぐ湾のさざなみ



井谷 まさみち

喜びをこらふる如く鳴き昇る雲雀の親のひたすらの声
車窓より見ゆる母校が万緑の中にて古び続けてをりぬ



唐津麻 貴子

「令和だよ」「国書だ」とテンション上がる昼

メキシカンブルーは冷静保つ

仄かなる紅を残して散る桜わが平成の夢の断片



選者賞

石井和子選

一夜さの星のしずくに満たされて白の桔梗朝をふくらむ

森悦子

呼び起こす言葉のように間を置きて枯葉はらりとまた一つ散る

埴岡佳津子

井谷まさみち選

「桃咲いた」友のメールに即五人寄る素早さを互いに笑う

宮崎トシミ

軒下の玉葱うわつと芽を噴きぬ人に知られず用意した春

妻木伊佐子

唐津麻貴子選

車椅子の少女を囲み花いちもんめ手を打てばさくら散りくる木下

森元英子

「私は貧しくはない」ホセ・ムヒカ氏そこはかとなく私を生きる

福岡悟

俳句



春日神社参道沿いに建つ「一人の句碑」
いわたのこたへ

かつて春日神社の神主を務めていた十人衆のひとり、石倉氏。その中に海南の俳祖と云われる石倉三左衛門。その人が一人（谷藤軒一人子）である。

大賞

明賞

廃校の校舎に和する卒業歌

和歌山県海南市 前田 長徳

浄賞

狩の犬息を激しく下知待てり

和歌山県和歌山市 天倉 都

優秀賞

正賞

蕨餅一つと同じ形なし

和歌山県海南市 上ノ山陽子

直賞

百選の水に映して初桜

三重県紀北町 樋口 里美

勤賞

紀州路や菜の花咲けば海青し

和歌山県岩出市 土江 祥元

一入賞（春日の森賞）

（海南での俳諧の祖と云われる「一入」）

一入賞は「一入子顕彰会」の石倉實氏（一入子末裔）より出されます。

二人ゐてこそその夕餉や秋ともし

和歌山県和歌山市

中浴 智美

春耕や産土神へ清め酒

千葉県佐倉市

小池 成功

団欒の声の漏れ来る星月夜

和歌山県和歌山市

野上 悦司

産土神に月誘い出す青葉木菟

三重県紀北町

東 優子

忌に集ふだけのふるさと春寒し

三重県紀北町

奥川 純子

花言葉お喋りといふ種を蒔く

和歌山県かつらぎ町

野口 城

- 福岡 悟 (東京都八王子市)
- 1 初不動人間なんだ人間よ
- 2 フクシマ忌わすれるものか赤とんぼ
- 宮崎美智子 (和歌山県和歌山市)
- 3 草むしる今日ここ迄と区切りつけ
- 4 新盆の友へ言葉をえらびつつ
- 椋本 望生 (大阪府堺市)
- 5 風青し網戸に解れありてなほ
- 6 よいしよとは即ちその気どぶさらひ
- 中島 紀生 (和歌山県紀の川市)
- 7 登り来し古道の宮に雛飾り
- 8 春時雨古道の宮の句碑洗ふ
- 畑中 敏子 (和歌山県有田市)
- 9 一つ残る熱出した子のお年玉
- 10 春疾風名札とられて名無し草
- 11 眼帯をとれば万朶の花眩し
- 12 風まかせダムに集る花筏
- 13 いま少し「残る桜」で居てみるや
- 14 スケートボード燕と競るや風切って
- 中浴 智美 (和歌山県和歌山市)
- 15 ままごとの子らを覗きに小鳥くる
- 16 二人ゐてこそ夕餉や秋ともし
- 小池 成功 (千葉県佐倉市)
- 17 田屋に耕馬嘶く星明り
- 18 春耕や産土神へ清め酒
- 天倉 都 (和歌山県和歌山市)
- 19 狩の犬息を激しく下知待てり
- 20 伎芸天拝して萩の風に会ふ
- 澤 禎宣 (和歌山県海南市)
- 21 蛇を捉へ飛び立つ鳶の影
- 22 風鈴の音色涼呼ぶ風誘ふ
- 前田 長徳 (和歌山県海南市)
- 23 廃校の校舎に和する卒業歌
- 24 涼しさや天使のごとく嬰眠る
- 上ノ山陽子 (和歌山県海南市)
- 25 蕨餅一つと同じ形なし
- 26 睡蓮の浮かぶ水面の暗さかな
- 27 指先に昨夜の冷氣雨戸繰る

- 28 堂塔の朱鮮やかや薄紅葉
土江 祥元 (和歌山県岩出市)
- 29 紀州路や菜の花咲けば海青し
大寒や犬の尿を待つ野道
板敷 清光 (大阪府泉南市)
- 31 足るを知る倅せに生き蜆汁
雲居なる大和三山青き踏む
野上 悦司 (和歌山県和歌山市)
- 33 団欒の声の漏れ来る星月夜
日向ぼこいつしか鳩の群の中
樋口 里美 (三重県紀北町)
- 35 我が干支のしかと見定む初暦
笹鳴きや飛行機雲も夕映へて
百選の水に映して初桜
花雫頬打つ朝の光かな
東 優子 (三重県紀北町)
- 39 咲く花の奥に亦花吉野山
常の如食饌仕る神の留守
産土神に月誘い出す青葉木菟
- 41 産土神に月誘い出す青葉木菟
- 42 曳く影も少しうかれて花の月
奥川 純子 (三重県紀北町)
- 43 お七夜の子に名がついて桜鯛
忌に集ふだけのふるさと春寒し
笹鳴きや砂紋ひろがる神の庭
復興の港に上る初鰹
露木 伸作 (千葉県千葉市)
- 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56
- 虹明り胸に浪音を聴きにけり
ふと妣のおもかけ浮ぶ合歓月夜
寺跡の鳥語に秋を惜みけり
立弁天春のひかりをかんでけり
いくへもの青嶺遠しや鳥の声
神杉のほつえ明るしけふの月
夕映の山の緑に花辛夷
風清やか朝日に光る鯉幟
津田 京子 (和歌山県和歌山市)
- 余寒なほ鯉鮓の汁を熱くして
すぐにまた会へると思ひ卒業す

- 57 卒園す先生とハイタッチして
58 風光るパンダの檻に子らの声
新井たか志(神奈川県大井町)
- 59 尊徳の学習田や水張りて
60 青木賊明るき方に風湧ひて
江見 巖(兵庫県相生市)
- 61 鳳仙花どちらともなく離れゆく
62 案山子翁話し相手は雀のみ
木幡 嘉子(福井県あわら市)
- 63 那智黒の硯に落す寒の水
64 耕しの始まる前の農具市
65 田の神に二礼二拍手春の土
66 優しさのよく見えなくて霧の中
田中たき子(和歌山県海南市)
- 67 吟行の心をのせて若葉風
68 初蝶の片耳飾り辻地藏
69 立春や青空宇宙けがれなし
70 万緑や拍手返るこだまして
- 71 船渡御の御霊も揺るる龍踊
竹本 治男(大阪府泉南市)
- 72 神名備に和太鼓響動み淑気満つ
中村 正志(和歌山県和歌山市)
- 73 一皺を一勲記とす初鏡
74 左義長や元気な児産め炙る腹
野口 城(和歌山県かつらぎ町)
- 75 花言葉お喋りといふ種を蒔く
76 石榴爆す朱肉の蓋の開くごとく
羽賀 明(和歌山県海南市)
- 77 柚子風呂より学びし歌の間こえけり
78 初紅葉畦に昼餉の老夫婦
亀井 洋(和歌山県新宮市)
- 79 改元の令和清しき五月かな
80 満開の令和の国のさくらかな

選者詠草



小阪南枝

笥を貫ふ土間なき台所
黒潮の縞を貫ひて初鰹



笠野千居

楼門の向かう万朶の花明り
風邪癒えていつもの大き声戻る



鳥井保和

源流の空のあをさや山桜
神宿る島を遥かに二重虹



選者賞

小阪南枝選

紀州路や菜の花咲けば海青し
産土神に月誘い出す青葉木菟

土江祥元（岩出市）
東優子（紀北町）

笠野千居選

花言葉お喋りといふ種を蒔く
廃校の校舎に和する卒業歌

野口城（かつらぎ町）
前田長徳（海南市）

鳥井保和選

忌に集ふだけのふるさと春寒し
廃校の校舎に和する卒業歌

奥川純子（紀北町）
前田長徳（海南市）

春日風鈴まつり

「短歌・俳句」表彰式次第

開催日：令和元年8月1日（木）

- I 邦楽演奏 13：00（拝殿にて）
- ・演奏と舞 海南文化協会邦楽研究部の演奏
つつてん踊り
- II 祭典 式 13：30（拝殿にて） 芸能上達・振興祈願祭
1. 修ばつ
 2. 祝辞奏上
 3. 玉 串
- III 表彰式 14：00頃（拝殿にて）※祭典終了後すぐに行います
- ・春日万葉の森歌垣大会 花畑重靖会長 あいさつ
 - ・選者の先生方の紹介
 - ・来賓紹介
 - ・大賞作品の朗詠
 - ・表彰 春日万葉の森歌垣大会 短歌・俳句
「熊野・高野」短歌・俳句大会

風鈴まつり〔短歌・俳句会〕募集

短冊に短歌や俳句が書かれた風鈴が、春日神社拝殿一面に吊るされ、短歌・俳句などの芸能上達祈願や色々な願いごとが祈願されるまつりです。

〔応募要項〕

- 応募締切 八月五日頃迄にお願いします。
- 応募方法 風鈴の短冊に作品と氏名を書き事務局宛に風鈴と共に郵送下さい。
- 展示期間 八月一日～八月十五日
- 展示場所 春日神社拝殿

今年の夏も多くの皆様のご参加を賜わり度く、皆々様の出品を心よりおまちしております。

出品者全員に短歌・俳句作品集「風鈴まつり」を贈呈。

事務局 千六四二一〇〇二二

和歌山県海南市大野中五七七―

春日神社事務所(三上)宛

電話 〇七三一四八三―七五四七

第十五回

「熊野・高野」短歌・俳句大会作品募集

● 募集内容

熊野の部(熊野古道関連) 〓六日まで。

高野の部(高野山、高野街道関連) 〓六日まで。

(合計十二日まで。未発表作品品、楷書で丁寧にて。)

原稿用紙または便箋に住所、氏名、電話番号を明記。

二点(一組) 千円(作品に同封。切手不可)

令和二年二月〇四末日(当日消印有効)

● 出点料

千六四二一〇〇二二

● 応募先

和歌山県海南市大野中五七七― (春日神社内)

「熊野・高野」短歌・俳句大会係

〓〇七三一四八三―七五四七

● 選者

(短歌の部) 水本 光・杉谷陸生

(俳句の部) 桑島啓司・木下敦子

● 賞

【熊野の部】

和歌山県神社庁長賞 〓一名

熊野本宮大社賞 〓各一名

熊野速玉大社賞 〓各一名

熊野那智大社賞 〓各一名

松代王子賞 〓各若干名

神社本庁統理賞 〓一名

【高野の部】

和歌山県神社庁長賞 〓一名

高野山金剛峯寺賞 〓各一名

丹生都比売神社賞 〓各一名

丹生官省符神社賞 〓各一名

金剛院賞 〓各若干名

● 発表

風鈴まつり(八月一日～十五日)にて発表。受賞者に通知します。応募者全員に作品集「やまなみ参詣」を贈呈します。

※熊野の部と高野の部を同じ用紙に書かないようにお願いします。

第二十二回

春日万葉の森歌垣(短歌・俳句)大会募集

大会要項

●募集内容 四季を通じた作品で内容は自由。(未発表のもの)
●応募規定 用紙(A4)右半分に作品

二組(二首又は二句)≡三組まで可
左半分に郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年令、性別、電話番号を楷書で記入。

令和二年二月〜四月末日(当日消印有効)

●参加料 二首又は二句(一組)一、〇〇〇円

現金書留または郵便定額小為替で作品とともに同封。
(切手不可)

●応募先 千六四二一〇二二

和歌山県海南市大野中五七七一

(春日神社社務所内 三上 宛)

☎〇七三一四八三一七五四七

●賞 大賞(短歌俳句各一名) … 賞状+楮

優秀賞(短歌俳句各三名) … 賞状+楮

入磨賞・一入子賞 … 賞状

(作品集「神奈備」一冊を贈呈) 全作品収録

●選者 (短歌の部) 石井 和子、井谷まみち、唐津麻貴子

(俳句の部) 笠野 千居、小阪 南枝、鳥井 保和

●発表 (五十音順)

右記の賞とは別に選者賞有り

風鈴まつり(八月一日〜十五日)にて発表。受賞者

に通知します。応募者全員に作品集「神奈備」を贈

●発表表 呈します。

寄贈句集・歌集など

「星雲」

鳥井 保和

「滝山」

桑島 啓司

句集「初鏡」

奥井 志津

この作品集「神奈備」は、東京の国立国会
図書館・日本現代詩歌文学館並びに和歌山県
立図書館、同紀南分館に納本されます。
また、全作品は春日神社のホームページで
もご覧いただけます。

<http://kasuga-kainan2.com/>



令和元年八月一日発行

春日万葉の森歌垣

(短歌・俳句) 大会事務局

〒六四二―〇〇二二

和歌山県海南市大野中五七七―一

春日神社社務所内 (三上)

電話 〇七三 (四八三) 七五四七